

GXリーグにおけるサプライチェーンでの取組のあり方に関する研究会

第 2 回事務局資料

2025年7月15日

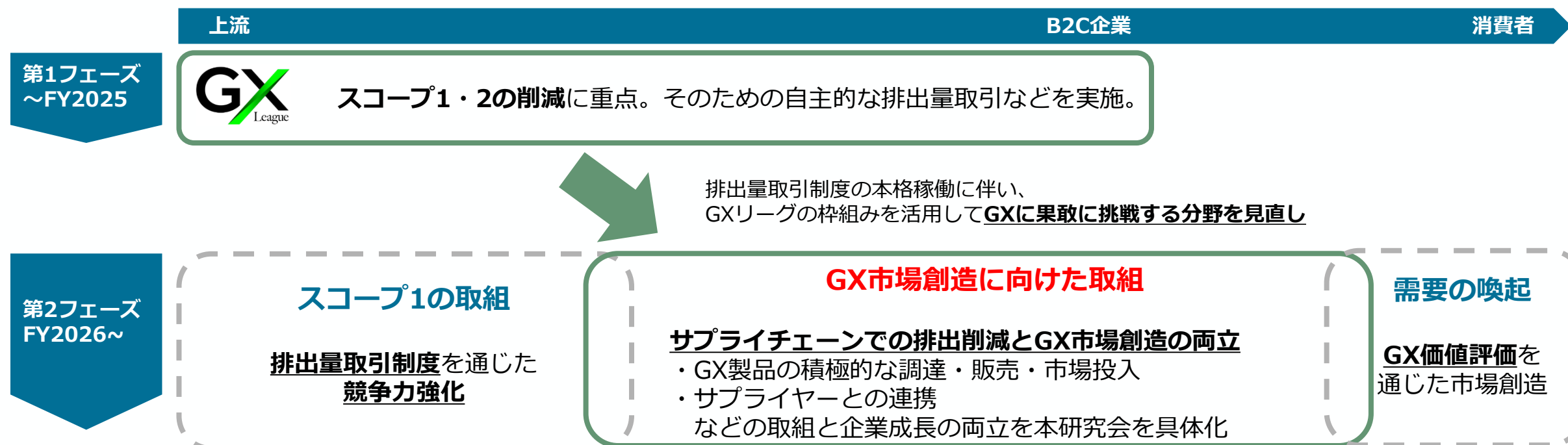
経済産業省 GXグループ 環境経済室

1. 第1回研究会振り返り

2. 議論の方向性

GXリーグ見直しの方向性

- カーボンニュートラルへの移行に向けた挑戦を果敢に行い、ビジネスで勝てる企業群がGXを牽引する枠組みであるGXリーグを、今後サプライチェーンでの排出削減を通じてGX市場創造に取り組む企業が持続的な成長を実現できる枠組みに見直し、こうした取組を行う企業をGXを牽引する企業として位置付けていく。
- このため、市場創造に効果的な取組（GX製品サービスの積極調達・販売等）と方向性を具体化する。
- 足元のBtoC企業の状況等も踏まえて検討し、現実的かつ効果的な取組を促進。足元から取り組む企業を後押しする。



第1回研究会での議論の振り返り

- サプライチェーン全体での排出削減を牽引する優良事例を掘り起こし、横展開していくことが重要ではないか。また、実際に排出削減に取り組む企業ほど排出削減のメリットや意義を感じていることから、排出削減に取り組むにあたってのハードルを下げつつ、中小企業への取組の浸透を徐々に進めてはどうか。
- 業種ごとにサプライチェーンの構造やサプライヤーの規模に相違があるため、サプライチェーンでの排出削減に取り組むことへのハードルを下げる観点からも、実態を十分に踏まえた設計にすることが不可欠。
- また、サプライチェーンでの排出削減によって生まれる環境価値について、最終消費者への訴求・理解醸成があらゆる業界で必要。マーケティング支援や購買インセンティブの付与など、政府の支援策を講じつつ、現場が持続的・自律的にサプライチェーンでの排出削減に取り組むことが可能になるような環境整備が不可欠。

【取組に関する意見】

- サラダカップ容器のバイオマスPET化など、当社も様々な取組を行っているがそれぞれが点であり、今後、取組が線となり、面になると、消費者にもより強く訴求出来るのではないか。（斯波委員 一般社団法人 日本フランチャイズチェーン協会）
- ベストプラクティスを企業間で共有することで、各社が取組のイメージを持ち、GXはだれでも取り組める活動であるという認識が広がり、徐々に中小企業含むサプライチェーン全体に取組が浸透していくようなあり方が望ましいのではないか。（富吉委員 日本繊維産業連盟）
- 脱炭素に取り組むメリットや意義について、取組を行っていない企業は2割程度が「感じられない」と答えた一方で、実際に脱炭素の取組を行っている企業を対象に分析すると、「感じられない」という回答は半数の1割程度であった。（皆藤委員代理 日本商工会議所）
- ZEH水準住宅への優遇措置が導入されて住宅購入希望者からのニーズも生まれ、住宅メーカーもZEHへの取組意向が強まり、結果としてZEHの普及率が上がった。（中上委員代理 一般社団法人不動産協会）

(ご参考) 第1回研究会でのご発言要旨

【取組の後押しや付加価値の訴求に関する意見】

- カーボンプライシングの導入により、従来製品とGX製品の価格差は徐々に解消されていくと認識しているが、解消に至るまでの期間ではGX製品に対する支援が必要ではないか。（鶴崎委員 株式会社住環境計画研究所）
- 同業複数社で協働できるような支援モデルも一案ではないか。スタートアップや中小企業が有する技術や人材は、大企業側も連携するメリットがあり得るのではないか。（石山委員 一般社団法人シェアリングエコノミー協会）
- サプライチェーンの上流側の付加価値を、中流～下流に還流させるような最終製品や購入側に着目した取組が必要。このためには、OPEX支援、マーケティングの見直し、GX価値に消費者自身が気づくようなインセンティブ設計といった新たな手法を検討も必要。（鈴木委員 ポストン コンサルティング）
- 1990年代後半ぐらいからリサイクル素材の使用を開始しているが、原料価格が比較的高く、追加コストを製品にすべて転嫁するのは難しいのが実態。環境配慮型の素材を開発・使用しても、CO2削減に反映できるような製品原単位がなかったり、サプライチェーン上流企業から素材の環境負荷に関するデータを得ることが難しかったりするため、最終的に削減効果を示すことが難しい場合がある。（勝田委員 ジャパンサステナブルファッションアライアンス）
- 数多くの中小企業が関わっている中で、Scope3を可視化していくことの負担は非常に大きい。Scope3の上流については、パートナー企業の事業規模が小さいことも念頭に置きながら、どのようなサポートや仕組みを通じて、業界として取り組めるのかを考えることが必要である。（渡邊委員 日本チェーンストア協会）
- GX製品市場の拡大に向け、労働者数の多い流通業界等のスタッフに対する教育効果は、顧客へのGX製品の価値訴求という面と、消費者に転じた際の効果の双方が期待され、波及効果が大きいのではないか。（鶴崎委員 株式会社住環境計画研究所）
- 消費者のことを意識すべきという発言も数多くあったように、最終的に市場創造が消費者までシームレスに伝わるようなGXサプライチェーンの構築を目指すべく、関係者とも十分に連携しながら、検討を進めていくことを期待したい。（工藤座長 一般財団法人日本エネルギー研究所）

- 
1. 第1回研究会振り返り
 - 2. 議論の方向性**

サプライチェーンでの取組促進に向けて

- GX市場創造に向けては、より多くの企業を巻き込み、点でなく面での取組としていくことが重要。その際、業種や企業の特성에応じてサプライチェーンの構造や特性が大きく異なることを留意し、足元の状況や優れた取組を踏まえながら、今後の方針を具体化していく。
- さらに、環境負荷の低い部素材の調達や中小サプライヤーとの協業などサプライチェーンでの排出削減が、消費者への付加価値となるためのGXリーグの在り方をあわせて検討が必要。
- このため、足元の取組状況や課題について、関係者からのヒアリングを実施する。

ヒアリング事項

- 企業、業界におけるサプライチェーンでのGXに関する方向性
- Scope3、サプライチェーン全体での具体的な取組事例
 - ✓ 個別の取組事例の紹介
 - ✓ 取組による効果
 - ✓ 今後取組を進めていく上での課題
- 今後GXを推進するにあたっての課題
- 業界の特性を踏まえ、GXリーグで取組を進めていくために必要なこと、期待すること

本日御議論いただきたい事項について

- 勝田委員、斯波委員、山本委員の御説明を踏まえて、
①-優れた取組の横展開をどのように進めていくか、
②-取組課題についてGXリーグを通じてどのように解決できるか
③-サプライチェーンでの排出削減の取組を消費者への付加価値としてどのように訴求していくか
を中心に御議論いただきたい。

- 勝田 悦弘 ジャパンサステナブルファッションアライアンス（株式会社ゴールドウイン サステナビリティ推進室）
 - Scope3、サプライチェーン全体での取り組み事例
- 斯波 康弘 一般社団法人 日本フランチャイズチェーン協会
（株式会社セブンーイレブン・ジャパン 建築設備本部エネルギー部 総括マネジャー）
 - セブンーイレブンにおけるサプライチェーンでの脱炭素へ向けた取り組みと今後の課題
- 山本 有 一般社団法人不動産協会 環境副委員長
 - 不動産業界におけるカーボンニュートラルに向けたサプライチェーンでの取り組み要望

參考資料

企業に広がる積極的な取組の事例

- サプライチェーンでの排出削減に、足元から積極的に取り組む事例も生じている。
- 市場創造には、こうした取組の横展開とあわせ、取り組む企業が評価され成長する環境を実現していくことが不可欠。

事例1

三井不動産が新築ビル
（日本橋本町M-SQUARE）に
神戸製鋼の低炭素鋼材を採用



事例2

セブンイレブンジャパンが、
サラダカップ容器をバイオマスPETを
配合した容器に切替



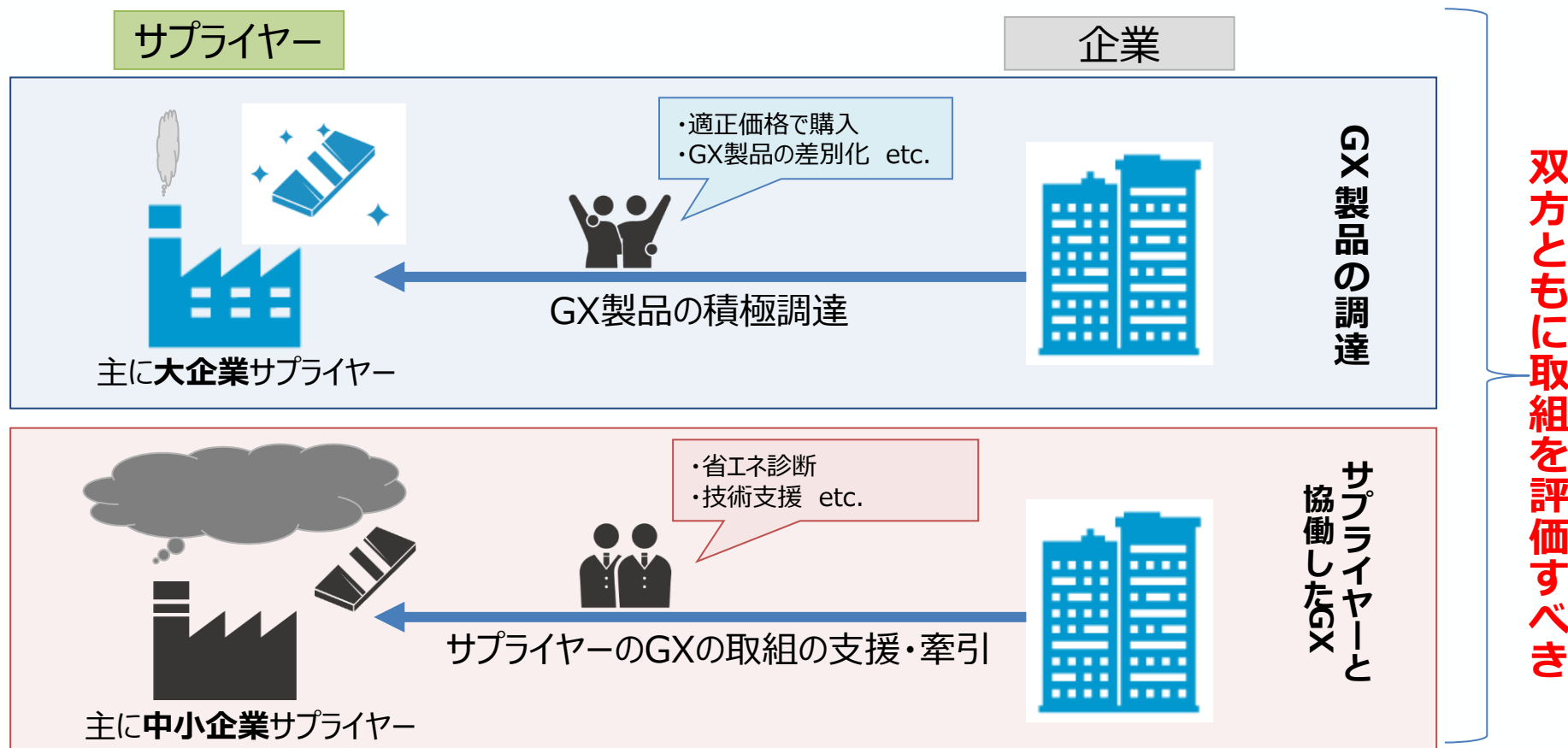
事例3

ゴールドウインでは、新たに
素材や輸送における排出も含め、
「CFPゼロ」のシューズをリリース



サプライチェーン全体での排出削減と競争力強化の両立

- サプライチェーンでの取組については、GX製品の積極調達等の取組のほか、サプライヤーとの連携を深め、協業して取組を進める事例も存在。
- モノの調達のみならず、サプライヤーとの協業も持続可能な成長の観点からは重要であり、こうした協業もGXの取組として位置付け、取組を進める企業を積極的に評価していくことが重要。



【参考】 スコープ3（カテゴリー別）

上流

Scope3カテゴリ		該当する活動（例）
1	購入した製品・サービス	原材料の調達、パッケージングの外部委託、消耗品の調達
2	資本財	生産設備の増設（複数年にわたり建設・製造されている場合には、建設・製造が終了した最終年に計上）
3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動	調達している燃料の上流工程（採掘、精製等） 調達している電力の上流工程（発電に使用する燃料の採掘、精製等）
4	輸送、配送（上流）	調達物流、横持物流、出荷物流（自社が荷主）
5	事業から出る廃棄物	廃棄物（有価のものは除く）の自社以外での輸送（※1）、処理
6	出張	従業員の出張
7	雇用者の通勤	従業員の通勤
8	リース資産（上流）	自社が賃借しているリース資産の稼働 （算定・報告・公表制度では、Scope1,2 に計上するため、該当なしのケースが大半）
9	輸送、配送（下流）	出荷輸送（自社が荷主の輸送以降）、倉庫での保管、小売店での販売
10	販売した製品の加工	事業者による中間製品の加工
11	販売した製品の使用	使用者による製品の使用
12	販売した製品の廃棄	使用者による製品の廃棄時の輸送（※2）、処理
13	リース資産（下流）	自社が賃貸事業者として所有し、他者に賃貸しているリース資産の稼働
14	フランチャイズ	自社が主宰するフランチャイズの加盟者のScope1,2 に該当する活動
15	投資	株式投資、債券投資、プロジェクトファイナンスなどの運用
その他（任意）		従業員や消費者の日常生活